

## ネットワーク情報学部 教授 田中 稔 Minoru Tanaka

読めば読むほど味の出る本ということで、この本が浮かんでくる。平成元年の発行だが、今読んでもこの本の筆者の感慨や思いが轟々と伝わってくる。研究に行き詰まった時などにこの本を読むと勇気づけられる。

インターネット社会の現代ではもはや当たり前となっている光通信、その光ファイバーの有効性に世界で初めて気づき、「発明者」として知られている西澤潤一東北大学名誉教授。彼にはそのほかにも発光ダイオードなど数えきれないほどの発明があり、未完のノーベル賞候補といわれ続けてきた。この本は彼の半生を綴ったものであるが、独創的な仕事を行う苦悩、闘いなどが良く伝わってくる。さらに所々で引用される語句や言葉が印象的である。「愚直一徹、大道無門」、「自分を胡麻化さないという一点で、私は確かにかなりの頑固者である」、「頭をいじめぬいたからこそ、“頭が強く” なった」等々。

どうやら、「独創」に必要なのは「賢い頭」ではなく、自分を胡麻化さない「強い頭」、そして常に問題意識を持つこと。

### その他の推薦図書

- ・「フェルマーの最終定理」サイモン・シン（青木薫訳）（新潮文庫）  
数学の定理を証明することの大変さがリアルに感じられる
- ・「国家の品格」藤原正彦（新潮新書）  
数学者でもある著者の一種独特な考え方に共感するところが多い
- ・「統計学を拓いた異才たち」D. サルツブルグ（竹内・熊谷訳）（日経ビジネス人文庫）  
数理統計学の歴史的な流れ、思想の変遷がわかる



独創は闘いにあり / 西澤潤一著  
新潮社，1989.2  
(新潮文庫)



生田分館 X/080/Sh61/Nis

神田分館 /507/N87